

浮きわら対策がきっかけ

千葉県富津市 今井喜八郎さん

今井喜八郎さんは、千葉県富津市八田沼で秋に稲わらすき込みを実施しておられる篤農家である。

富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40kmにおよぶ海岸線と、マザー牧場がある鹿野山や、切り立った崖の鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かなところである。

八田沼地区は昭和48年に基盤整理が実施されて、現在、農家戸数が35軒あるなか、今井さんはコシヒカリを1.3ha栽培している。また、農業共済組合の理事も務められている。

今井さんが稲わらすき込みに石灰窒素を使用した動機は、5～6年前に浮きわら対策で悩んでいた折、農業雑誌が紹介していた記事を見たのがきっかけだ。

当初は、すき込み時に石灰窒素を4～5kg/10a使用していたが、まだ浮きわらが少々残っていたため、2年前から10kg/10a施用したところ、腐熟が進むためか、その後はわらが残ることもなく満足している、とのことである。この方法は、最近は周辺農家にも普及し、同地区30ha中15haで実施されている。

当初は窒素分が残ることによる倒伏を心配したが、まったく問題なく、今では安心して続けているそうである。

今井さんの1年間の作業体系は次のとおりである。

- ①9月初旬の刈り取り後、10月中旬までに石灰窒素10kg/10a施用し稲わらをすき込む。
- ②12月下旬、雑草の発生を抑えることも兼、2回目の耕うんを実施。
- ③2月、稲わらの腐熟をより早める目的で3回目の耕うんを実施。
- ④4月中旬に基肥施用(窒素成分で2.4kg/10a)。
- ⑤4月22～26日に田植え(畝幅:30cm、株間:28cm、53株/坪、4～5本/株)、倒伏しにくいように疎植している。
- ⑥6月初旬に珪酸カリ30kg/10a、重焼燐20kg/10aを施用、圃場の様子を見て追肥に硫安をつなぎ肥えとして4～5kg/10a施用。
- ⑦7月初旬に穂肥としてNK化成(17-0-17)を15kg/10a施用。7月20日前に出穂。
- ⑧9月初旬に収穫(周辺農家に比べ約1俵増収)。



今井喜八郎さん